

合併70周年に向けて

現在の田原本町は、昭和31年9月30日に多村・川東村・平野村・都村・田原本町の5町村が合併したことで誕生し、今年、合併70周年を迎えます。住民の皆さんの田原本町への愛着を深める機会としていただけるよう、町に縁のある人々に町の魅力を語っていただいています。

連続特集の第2回目となる今回は、唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会から会長の今西和代さん、田原本町観光ボランティアガイドの会から会長の塚田四郎さん、創立メンバー

である松井堯一さん、多集落営農組 合女性部から西尾明美さん、三善美津子さん、中井登志子さん、大井広枝さん。

インタビュー第1回、遺跡を守ってきた藤田三郎さん（田原本町埋蔵文化財センター長）から、今の田原本へ。その志を受け継ぎ、田原本の魅力を観光として全国、学びの場を通じて次世代へ。また、農を通じて豊かな景色を育む人々がいます。未来へと実りを紡ぐ活動を紹介します。

「町の未来を動かす熱い思い」募集！

「より良い町にしたい」「仲間と共に情熱を注いでいる」「大好きな場所を未来へ伝えたい」など、想いと活動を掲載し、共感の輪を広げませんか？
・美化活動で汗を流している人
・地域イベントに携わる人
・伝統文化やスポーツの普及活動をしている人 など



活動内容

「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会（支援隊）」では、小学校での弥生時代の体験学習のサポートをはじめ、唐古・鍵遺跡史跡公園でのイベントや文化祭での勾玉づくり、遺跡の案内などを通して、唐古・鍵遺跡の魅力伝える活動をしています。

活動を始めたきっかけ

北小学校の教員時代に「子どもたちに本物を見せ、体験をさせたい」という想いをきっかけに活動を始められました。

藤田三郎さん（連続インタビュー第1回掲載）を頼り、唐古・鍵遺跡の出土品に触れ、弥生時代の暮らしを学び、勾玉づくりや土器づくり、火おこし、土器での赤米炊飯などを授業に取り入れて来られました。

現在では、そうした弥生時代の体験学習の授業は町内の全ての小学校で行われており、当初からサポートされています。

活動の励み

活動を続ける中で何より嬉しいのは、子どもたちの反応だと笑顔で話されます。

体験をした小学生からの感謝の手紙や、まちなかで子どもたちに

学びを伝え、次の世代へつないでいく

「支援隊のおばちゃんや」「勾玉まだ持つてるねん」と声をかけられると、活動を続けてきて本当によかったと感じるそうです。
学びを伝え、つないでいく

約22年間活動してきた今「田原本町には、日本を代表する唐古・鍵遺跡がある」と胸を張って言えます。その魅力を町内外の人に伝えていきたいです。

体験学習を機に唐古・鍵遺跡に興味を持った中学生の入会もあり、次世代へ受け継がれている喜びを感じていると語られました。

これからの田原本へ

これからも、町の大切な財産である唐古・鍵遺跡について学び、学んだことを伝え、次の世代へつないでいきたいと抱負を述べられました。

最後に、会の活動には、考古学の知識は必要ないので、一緒に活動してみませんかと言われました。



唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会 会長 今西 和代さん

活動内容

弥生時代から近代までの田原本町の魅力をガイドしています。

「余談」にこそ、町の本質

ガイドで大切なのは「余談」を織り交ぜること。「歴史の年号や史実は、今は調べれば誰でもすぐに分かります。でも、その出来事に至るまでの『物語』や、そこに住む人々の暮らしといった背景は、その場にいるガイドにしか語れません」と塚田会長は笑います。「史実だけでは聞き手も疲れてしまいます。一人として同じガイドはない。その日の空気感や、相手の反応を見ながら、田原本の魅力をどう届けるか考えるのが楽しみなんです」弥生時代から現代まで、この地ですっと暮らしが続いていることのごさ。そのすごさをお二人は「余談」というスパイスを効かせて、伝えていきます。

いぶし銀のまちを楽しむ

「田原本はキンピラ（華やか）な観光地ではないけれども、住めば住むほど味わいが出る『いぶし銀』のようなまち」そう語るお二人は、活動を始めたきっかけを明かしてくれました。「最初は地域のことをよく知らなかったので『住んでいるなら知っておかないと』という、好奇心

まちの魅力を伝える「語り部」たち



田原本町観光ボランティアガイドの会
会長
塚田 四郎さん 松井 堯一さん

から」と塚田会長。松井さんは「体調不良で活動を休止していた時、仲間の楽しそうな姿を見て、たまらなく羨ましくなった」と振り返ります。

お二人とも「知れば知るほど、始める前よりもずっと、田原本が好き」と目を輝かせます。「町のために」と身構えず「楽しむ」のでから輪に入りたい。そんな純粋な好奇心が、田原本のまち歩きをより豊かにしています。

これからの田原本へ

「この町は歴史が証明しているように暮らしやすく、交通の便も良い。もっと若い世代や働く世代の方に、この住み心地の良さを知り、楽しく暮らして欲しい。そして、その魅力で定住者が増えてほしいですね」と語っていただきました。

活動内容

女性部では、地域で収穫し加工した米粉を使い、園児とのピザ作りや餅つき体験などを行っています。また、サロン活動を通じて地域住民との交流も深めています。

これらの活動を通して、子どもたちや地域の方々に農業への関心を持ってもらい、地域農業を次世代へつなぐことを目指しています。

活動を始めたきっかけ

中井さんは約30年前に田原本町へUターンし、地域住民に声を掛けられたことをきっかけに参加するようになり、交流を通じて農業への思いに共感されました。

日本の農業や米を大切にしたいと考え活動に参加し、5年ほど前に発足した女性部の中心として現在の活動に取り組んでおられます。

絶品シフォンケーキ

健康志向や小麦アレルギーへの配慮から米粉を原料とした製品作りに力を入れておられます。また、米粉を使った絶品のシフォンケーキやパン、焼きドーナツ、うどんの普及にも取り組まれています。

営農組合が主催する米粉ケーキ作り教室には、磯城野高校の先生や生徒が参加し、米粉レシ

地元の作物を守り、未来へつなぐ



多集落宮農組合 女性部
左から
西尾 明美さん
三善 美津子さん
中井 登志子さん
大井 広枝さん

ピの開発も学校主体のもと進められています。

これからの田原本へ

子どもたちに田原本町の農業へ興味を持ってもらい、将来につなげていという思いで活動されています。

農業体験を通じて自然や食べ物の大切さを伝えるとともに、地産地消を推進し地域農業を守っておられ、多地区の人々が支え合いながら農業を継承していることに誇りを持ち、これからの田原本を担う人づくりができればと述べられました。

最後に、中井さんたちは農業や地域活動に関心のある人の参加を歓迎しており、地域農業の未来を支える仲間として、ぜひ活動に参加して欲しいと語られました。